「CATY」の名前は、「CAmpus」と「ciTY」からの造語で、地域と大学の相互理解、交流促進を目的として生まれました。「地域との共生　社会に学ぶ」を合いことばに、高等教育機関としての教育研究の成果を、地域に発信します。また学生が取材活動を通じて、読む・書く・話すといった能力を開発していくことも意図しています。

http://www.kokugakuin-jc.ac.jp

News CATY（ニュース キャティ）

２０１８年２月　第119号

発行／國學院大學
北海道短期大学部
滝川市文京町３－１－１
TEL0125-23-4111　FAX0125-23-5590
編集事務局長　藤本　愉

一年間の活動を報告

舛井ゼミ 地域報告会 来年度に向け意欲

私たち舛井ゼミは2月11日に滝川市まちづくりセンターみんくるで「地域報告会」を行いました。「地域報告会」とは1年間舛井ゼミとして研究してきたことを発表する会のことで、舛井ゼミ最後の活動が「地域報告会」になることが多いです。

「地域報告会」は午前10時から始まって、途中休憩を挟みながら17時まで行いました。午前の発表内容としては、2年生は『舛井ゼミのモチベーション』や『空き家問題の現状と有効活用の方法』。1年生は『ブランドによる購買意欲の変化』など、多くの研究発表がありました。

午後の発表は、2年生が『アニメによる地域活性化』や『コインパーキングの出現条件と価格に関する調査研究』。1年生は『外国人観光客に対するサービス』や『地域を生きる舛井ゼミ』というテーマのもと研究を進めていたグループもあり、舛井ゼミのことを研究テーマにしていることから、来年度の舛井ゼミにどのようにして研究で得られたことを取り入れていくかが気になるところです。合計19のグループ発表が終わり、最後に各事業部報告を行って地域報告会が終了しました。

今年度の舛井ゼミとしての活動は終わりましたが、来年度も地域の皆様に寄り添って活動をしていきますのでよろしくお願いします。（総合教養学科1年／森浦拓巳）

寒中禊（みそぎ）に参加して

北海道神宮で1月28日、短大生6人が寒中禊（みそぎ）に参加しました。雪が降りしきる中、褌一つで水を浴びる寒中禊は、覚悟がいる儀式でした。短大生は志願して参加しましたが、このような禊の神事に参加するのは初めてで、神道とは関係のない学生や一般の方々、自衛隊の方々などが参加していました。温めるための烏船歌（とりふねうた）、振魂（ふりたま）の練習のあと、いよいよ水を被る儀式です。薄氷が張っている水を桶で汲む際、あまりの冷たさで手が震え桶を持つのもやっとのことでした。

「エイ！」の掛け声に合わせ、参加者全員が一斉に水を被ります。禊の水は想像以上に冷たく、被るごとに身体の熱が奪われるのが分かるほどです。20杯水を被り終えた時には、禊場の水も半分以下に減っていました。

禊が終わった後、みんな達成感に満ちた顔をしており、意味深いものでした。この貴重な経験を糧にし、神職資格取得のために日々精進します。改めて、北海道神宮の御祭神、北海道神宮の方々に感謝します。（国文学科2年／松井佑亮）

1年間の学習の成果を発表

初等教育研究会報告会

本学で1月24日、滝川市内小学校の校長先生、滝川市教育委員会指導主事粟井康裕様、滝川市市民生活部山本亜希子様、とんぼの会代表平澤一彦様のご来賓並びに市民の皆様の参加をいただき、幼児・児童教育学科児童教育コースの学生70人による初等教育研究会報告会が開催されました。

2年生の代表が「稲作体験を通して食を考える」「環境教育実践の試み」「教育実習における学びの深化」と題して、1年間の学びの成果を発表しました。

どの発表も教育をめぐる課題について、学生として主体的に受け止めてよく考えられたものであり、しっかりと自分の意見を述べていました。特に教育実習についての発表は、自分たちが2年生で行うということもあり、とても考えさせられるものでした。

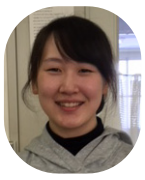
今回の報告会を通して学んだことを活かし、来年自分たちの実践研究の深化、発表に向けて、日常の授業の中で主体的に学ぶことが大事であるということに、改めて気が付きました。（幼児・児童教育学科 児童教育コース1年／草苅光起）

夢と希望を胸に新たな道へ

旅立ちの春―、夢と希望を胸に就職や進学で短大部を巣立っていく学生たち9人に、今後の抱負を聞いた。

就職

何事も努力の積み重ねが大事



私は1年生の時から公務員を希望していた。公務員対策はあまりしていなかったが、就職ガイダンスには毎回参加して、様々な職業の業務内容や職場環境などを聞いて知識を広げていった。中でも一番参加して良かったのは就活合宿だと思う。

就活合宿では履歴書の書き方など、一人で進めると大変なことを先生や外部講師の方に指導してもらった。このため、履歴書を書く時に困ったりはしなかった。さらに2年生からは、公務員試験対策をしながら民間企業の説明会に参加し、求人票や企業情報は積極的にキャリアセンターを利用して情報収集に努めた。昨秋に地元の市役所の求人があり、夏休み中は毎日勉強していた。一次試験を合格した後は面接練習をし、アドバイスを頂いて本番に臨んだ。その結果、地元の市役所に合格することができた。

就活を振り返って改めて学んだことがある。それは、支えてくださった人たちへの感謝の気持ちを忘れないこと、日々の生活がどれだけ大切なのかということだ。家族や就活をしていた仲間、先生方など多くの方に支えられていたからこそスムーズに就活が行えた。また、普段から笑顔で挨拶することを心掛けていたので、面接の際にも普段と変わらずに話せたのだと思う。

学んだことを仕事に生かす

私は4月から、札幌にある児童発達支援センターで働くことが決まりました。元々、人と関わり、人のためになる仕事に憧れていた私は、前々から、保育や介護の仕事について、興味を持っていました。そこで3年前、幼児・児童教育学科で保育士と幼稚園教諭の資格を取得し、さらに専攻科福祉専攻に進学した私は、介護福祉士の資格取得も目指すこととなり、今まで漠然と考えていた夢が、現実に近づいてきました。

しかし、私は、日々の学習や実習等を通して、どちらの仕事にも大きな魅力を感じてはいたものの、どちらの道が私にはあっているのか、どちらの道に進むべきか、決めかねていました。

その中で、私が児童発達支援センターへの就職を目指そうと決めたのは、幼児・児童教育学科と専攻科福祉専攻、その2つ学んできたことを活かせる仕事であると感じたからです。

保育、介護を通して人と関わる上で大切なことを学んだことはもちろん、その両方の観点からの障がい児や障がい者、その特性について学んできたことで、障がいということについてより深い理解に繋がったと思います。社会人として働くことに不安はありますが、自分がしたいと思ったことを仕事に出来ることは本当に嬉しく、誇りに思えます。

大学生活で学んだことを活かして、また、今後も学んでいきながら、人のためになりたい、という自分の夢を叶えていきたいと思います。（専攻科福祉専攻／上杉日菜恵）

町の活性化のために努力

私は國短に入学する前、小学校の教員免許を取得して教員として働こうと思っていましたが、卒業後は地方公務員・新十津川町役場職員として働くことになりました。

教員を目指していた私は、就職活動の時に面接で話すことを作らなければと思い色々なサークルに入りました。初めのうちはよく顔を出していたのですが、私はこのままでは面接で強い印象を与えるような経験はできないのでは、と思うようになりました。そこで、仲間とサークルを立ち上げました。

立ち上げたばかりのサークルではできることも少なく、専ら活動内容は学校や市内で行われる食関係のイベントのボランティアでしたが、活動を続けていくなかで様々な人と出会い、活動の幅は増え、サークルとしての活動実績をつんでいき、多くのことを学ぶことが出来ました。

活動の中では、滝川を活性化する「まちづくり活動」をしている学外団体と協力する機会があり、それが私の転機となりました。町を良くするにはどうしたらいいかを皆で考え、様々なイベントを企画、運営することが私にはとても楽しく感じ、この経験を生かした仕事をしたい、こんな活動を続けたいと思うようになりました。その結果として新十津川町職員として内定を頂くことが出来ました。

児童教育コースとしては珍しい進路となりましたが、就職のために思い行動したこの主体性を忘れず、2年間の学びで得たことを活かしながら春からは立派な社会人として働きます。（幼児・児童教育学科児童教育コース2年／中鉢大地）

アルバイトの経験を生かす

2年前、私が國學院大學北海道短期大学部に入学してから力を入れていたことは、勉強はもちろんアルバイトをするということでした。アルバイトは自分自身を鍛える大切なもので、人間関係の在り方について考えることができ、結果として私は楽しく働く喜びを感じることができました。

2年生になると、本格的に就職活動が始まったのですが、求人票を見てもアルバイト先と比較してしまうことが多く、新たに自分がどんな仕事がしたいのかというイメージをもてない状況が続きました。

このような中、私は友人やアルバイト先の先輩などに相談し、自分の考えや気持ちを固めることを大切にしながら、まずは、自分の気持ちを親にきちんと伝えようと考えました。親にアルバイトの仕事の継続が可能となったことに感謝するとともに、今年で2年目になるアルバイトが4月から正社員となります。これまで以上に多くの仕事を覚え、自分自身が満足と納得のいく仕事ができるようにこれからも一生懸命頑張っていきたいと思います。（総合教養学科2年／赤沢美玖）

進学

教員になるため一層の努力

國短の授業は、私の知らない言葉がたくさん飛び交う場でした。高校時代、あまり勉強をしてこなかった私にとって、とても苦痛な場で「勉強したくない」ときえ思ったほどです。しかし、その一方で「このままでは置いていかれてしまう、編入という目標も遠ざかってしまう」と思い、一年生の空き時間に授業の復習を始めました。その積み重ねが今の自分に繋がっていると思います。

國短での一番の収穫は、気付くことが出来るようになったことだと思います。初めはわからなかったことが、後々の授業に繋がっていくところに大きな衝撃を受けました。その気付きから、いろんなものを関連付けて覚えるようにし、さらには普段の生活の中でも同じようなことがたくさんあることにも気付くことができるようになったのです。友人関係のなかで相手の顔色や態度を見てどういう思いなのかに考えを巡らしたりすることは、私が志望する教職にも切っても切り離すことが出来ない能力です。

編入を目指す仲間は総じて意識が高く、勉強するその姿にいつも触発され、いい刺激をもらいながら大学生活を送れました。私は、四月から地元滝川を離れ、渋谷の國學院大學の日本文学科に編入します。ここで学んだ知識をしっかりと生かして学び、そして自身の夢である教員としての力を磨き、北海道に戻って来て空知の子どもたちの教育に携わることを目指します。（国文学科2年／宮城島亮太）

短大部での2年間に感謝

高校3年生の2月末、國短に行くか行かないかをものすごく悩んでいました。そんな時、渋谷で開かれた説明会で児童教育コースの先生方や先輩方に、國短の魅力について聞いたり今ある不安を相談しアドバイスしてもらったりして、私は北海道で2年間親元から離れ自分一人で頑張ってみようと決意しました。

初めは、一人も知り合いのいない土地勘のないところでの生活は不安しかありませんでした。一日一日を過ごすだけでクタクタでした。ですが、私はここへ入学すると決めたとき、東京の四年制大学に行っていたらできないことに挑戦しながら、勉強はしっかりして必ず自分の行きたい編入先に行く！という強い意志とともに来ました。だから、辛い大変なことがあってもあきらめたり折れたりしることはありませんでした。その意志や國短でできた大切な仲間のおかげで、私は2年間を頑張ることができ、希望の編入先へ行けることが決まりました。

いまだに國學院大学へ4月から通うということに全く実感がありませんが、2年間頑張って得たいと思います。（専攻科福祉専攻／上杉日菜恵）

いち早く一人前の保育士に

就職は、「学校法人北広島竜谷学園小規模保育園こどものもり」に内定をいただきました。今回、内定をいただいた園は森で保育を行う森保育を行っていて、私はそこにとても興味を持ち、先生の勧めもあり就職することに決めました。

就職活動は、保育園で働きたいと考えていたのですが、求人票を見てもアルバイト先と比較してしまうことが多く、新たに自分がどんな仕事がしたいのかというイメージをもてない状況が続きました。

このような中、私は友人やアルバイト先の先輩などに相談し、自分の考えや気持ちを固めることを大切にしながら、まずは、自分の気持ちを親にきちんと伝えようと考えました。親にアルバイトの仕事の継続が可能となったことに感謝するとともに、今年で2年目になるアルバイトが4月から正社員となります。これまで以上に多くの仕事を覚え、自分自身が満足と納得のいく仕事ができるようにこれからも一生懸命頑張っていきたいと思います。（総合教養学科2年／赤沢美玖）

哲学を学び人間形成構築

私は今年の4月から國學院大學文学部哲学科に進むことになりますが、入学した当初は法学部への編入学を第一に掲げて勉学に励みました。しかし哲学系統の科目も学んでいく中で、私はもしかしたら「一つの事柄を考えることに向いている」と気付きました。そこから哲学へ興味を抱きました。

哲学ときくと皆さんは「堅苦しくて、屁理屈だ」と感じる方もいると思います。しかし、そのようなものではなく「一つの事柄を考える」ことこそが今後の人生、必要になってくると考えています。なぜならば、その事柄を熟考することで、自らの考えをしっかりと持つことができるからです。現在は多様な世界となっており情報は不確かなものが多いと感じます。その時に役に立つことは「自らの考え方をしっかりと述べられること」だと考えます。

このような考えを持つためには、やはり國學院大學に編入学し、先人の知恵をしっかりと学ぶことにより、自らの感性などを養うことができると考えています。同時に専門知識を確実に身に付けることでより良いものとなると考えます。

私の専門的知識や考え方などはまだまだ十分な状態にあるとは言えません。哲学科に編入にあたって、正直多くの不安を抱えているところですが、今後も勉学にこれまで以上に精進し「哲学をする」ということを自分なりに極めていきたいと考えています。

國學院大學北海道短期大学部での2年間、本当に多くの方々にお世話になりました。感謝の気持ちを込め無事卒業できることをうれしく思います。ありがとうございました。（総合教養学科2年／所大夢）

保育の経験を生かし介護へ

私が介護の分野に興味を持ったのは、小学生の時に見たテレビ番組の介護士特集がきっかけでした。その特集の内容自体は記憶が曖昧なのですが、介護という仕事を初めて知り、「こんな仕事があるんだ」「身体の不自由な人の生活の役に立っていてすごいな」と思ったことは今でもよく覚えています。

私は保育と介護、二つの分野について学びたいと考え、この学校に入学しました。この2年間は保育について学ぶ一方、1年生の施設実習やボランティア活動では施設に行き、多くの高齢者や障がい者の方と交流しました。実際に高齢者や障がい者の方と接すると、自分の想像以上に介助に手間取ってしまったり、上手くコミュニケーションをとることが出来なかったりと大変なこともありましたが、交流していく中で彼らの笑顔や温かさに触れ、感謝されることにやりがいを感じました。

元々専攻科への進学は決めていましたが、これらの経験をしたことでより一層介護について学びたいと思うようになりました。

福祉専攻科は毎日講義がびっしりあり、今まで以上に日々の努力や過ごし方が問われると思います。これまでの保育の学びを活かしながら、1年間を有意義に過ごし介護の知識や技術を身に付けていきたいと思います。（幼児・児童教育学科福祉介護コース2年／梅津里穂）

☆３月ラストスパート　入試情報☆

入試方法	出願期間	選考日
・自己推薦入試第Ⅴ期 ・日本語に関する基礎知識を問う入試 ・社会人帰国子女特別入試第Ⅲ期 ・併願型入試第Ⅳ期 ・センター試験利用入試第Ⅱ期	平成30年２月27日～３月13日	平成30年３月17日 ＜合格発表＞ 平成30年３月21日
・自己推薦入試第Ⅵ期 ・ありす会特別入試第Ⅱ期 ・併願入試入試第Ⅴ期 ・センター試験利用入試第Ⅲ期	平成30年３月５日～３月25日	平成30年３月28日 ＜合格発表＞ 平成30年３月29日

※併願入試は國學院大學受験者に限ります
※詳細・お問合せ、資料請求は入学係まで（TEL0125-23-4111）
進学相談・校舎案内は随時受付中